



やまゆり

学校だより

令和5年9月25日
44号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標重点 「居心地良く、やる気のある学級・学校づくり」・「確かな学力の育成」

県の指導主事訪問で指導や生徒を評価して頂きました

9月22日(金)に富士・東部教育事務所の指導主事3名が来校し、各学年の学習指導を参観し、指導方法や生徒の学習の様子を高く評価して頂きました。「指導主事」は、学校経営や教育指導について専門的な知識を通して教職員に指導・助言する仕事をします。

現在、県内全ての小中学校を巡回訪問しながら、文部科学省や山梨県、各校の教育状況について指導・助言したり、各校からの質問に応えながら教育力の向上に努めています。

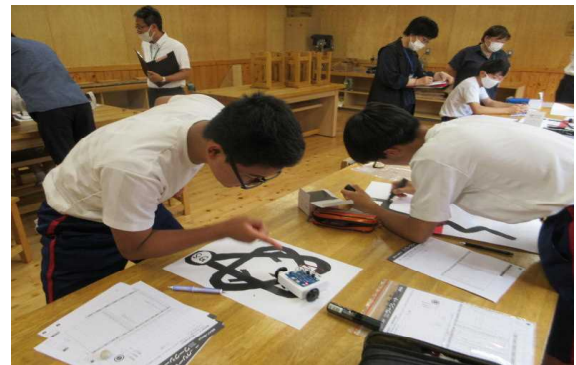
技術の学習指導への評価

3年生の生徒が残り時間がわずかの時に、他者の学習の様子を参照し、自分の学習に生かす自己調整力を発揮していた。また、協働性も高いレベルで実現されていた。

一番奥の3名が指導主事



プログラミングの学習に主体的に活動する生徒



芦沢先生の技術科の指導や全職員が統一した指導、生徒の「主体性と協働性」を評価



美術の学習指導への評価

美術の学習指導は、目標を決めた後に自分のペースで試行錯誤しながら作業を行っていた。県で推進している「自由進度学習」の見本となる指導である。

長く本校の指導をして下さっている山室先生(高校でも指導中) 高校一年生の作品



集中して学習に彫刻に取り組む生徒



奥は指導主事 一人一人進度が違う学習



社会科の学習指導の評価



生徒に知識を詰め込む指導が多い社会科で、既知の知識を活用して単元の指導を開始した。生活知と学習知を往還させながら自分の考えを確かなものにしていた。地理と歴史を関連づけて考えたり、理科で学んだ秋吉台と関連付けたりして、深い学びを実現している生徒もいた。



社会科の学習指導 鈴木先生 社会が専門の指導主事から、良い指導だと高く評価された。



脩大さんの意見発表



佳太さんの意見発表

指導主事からの指導・講評



灘谷指導主事

- 学校経営の方針が一人一人の教職員に行き渡っている。どこの学校でも目指すが、なかなか実現できない難しいこと。
- 生徒の発言や指導方法から「異学年交流」を日常的に意図して実行していることが分かった。2年生の社会科では、原爆ドームのことは3年の先輩から聞いたという発言があったり、1年生の版画の学習でも先輩の作品がモデルとして活用されていたりした。

- 生徒同士の協働学習による有機的な関わりが良い。規律や人間関係が充実し、うなづきや質問などを繰り返しながらより良い意見を創造しようとしていた。社会科でも、話し合いに際して「司会を立てて、一人一回は発言したかを確認」していた。
- 学年職員がTTの形態で積極的に学習指導に参加している。この姿勢は素晴らしい。教職員の主体性と協働体制がとても高い。

三浦指導主事

- 特別活動ではなく、全職員で学習指導を通して「安定と活性化を両立した学級集団」づくりを協働実践している。今求められている実践だが、すでに実現していることが素晴らしい。
- 国立大学附属等の研究校で挑戦していることを、公立で挑戦して具現化している。
- 各種の標準化検査データに基づいた取り組みを協働実践しながら、さらに正のスパイラルでより良い活動やレベルに高めている。
- 2年生では脩大さんや佳太さんを筆頭にグループ内での発言でより良い意見を創造するために「質問」したり、感想を言ったりして協働活動を成立させ、学びを広げたり深めていた。

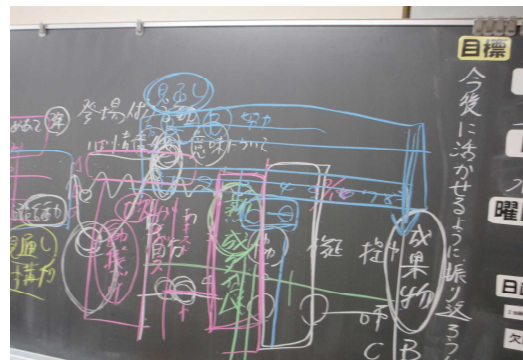
佐藤主幹指導主事（校長相当の指導主事）

- 引き続き事故防止、服務規律の徹底をお願いしたい。
- 今後、義務教育課から学習指導の改善に関する資料(複線型)が出るので活用して頂きたい。
- いじめ・不登校は依然として山梨県の大きな課題。予防・予防教育の徹底をお願いしたい。
- 今後も指導主事・スクールソーシャルワーカー(SSW)等を活用して下さい。

中山先生・天野先生・組谷先生
校内研究の「学習指導」を推進する先生の会議



10月の公開で活用する
学習キャリアパスポートはここで考えられた



学校教育指導重点 「居心地良く、やる気のある学級」・「確かな学力の育成」

今求められる一人一人の「主体性と協働性」を高く評価された理由

学校教育は、**人権や資質能力の確実な定着を求められており、その実現のためにはまず、教職員の主体性や協働性が重要です。**本校では、「**安定と主体性**」を両立した**学級経営を組織で実現し、いち早く複線型の学習指導を10月18日に公開研究会で発表・研究**します。

1 今学習指導で求められていること

- 先行き不透明な時代を、**一人一人が生きるための資質・能力(学習指導要領の指導事項・めあて)を確実に定着させることが様々な教育改善の主たる要因**です。

2 「一斉授業」から「生徒主体の複線型学習」への改善が求められている

「**一斉授業**」→①「先生の説明で知識・技能のインプット」→②先生の指示で一斉に端末や協働活動→③「教師の指示で一斉に発表」→④「中間・期末テストで評価」

※ 個人的見解 一斉授業の最大の効果は効率的であることです。時間の確保や、知識・技能を確実に身につける目的において行うことは重要です。

「**複線型学習**」→①知識・技能のインプットや学習課題・活動の確認→②個人の主体的学習を中心に何度でも他者の意見や成果物を参照できる(複線型学習)→③協働・自己決定を繰り返して発表や成果物の提出→④パフォーマンス評価・各種ペーパーテスト等で評価→⑤評価を次の学習に生かす

3 生徒一人一人を主体とした複線型指導の実現は難しい主な理由

①複線型の学習指導は、**ルールが定着した安定のある学級で、しかも主体性や協働性が高く人間関係の充実した学級**であることが前提です。学級経営は重要ですが、人数が少なくても集団は荒れます。荒れは、人数の影響より安定している学級経営ができるかどうかの問題です。しかも、**安定していて、活性度の高い学級集団づくりは、理想とされますがそれを実現できる指導者は全国でもごく少数**です。本校の教職員は、協働して実現しています。

②「安定と活性化」を両立していない学級で、複線型学習を形式的に取り入れると「いじめ」が発生します。本校では、**ルールやマナーの徹底による生徒主体の「いじめ防止」・「不登校防止」により、主体的・協働的な活動がある程度できます。**その基盤の成果が若鮎祭に顕著に表れていました。**10月18日(水)に義務教育課や大学の先生方にその成果を公開**します

③教職員の指導の面では、複線型学習指導の理論は分かるが実際には他者の指導を見たり自分で実践している教職員はごくわずかなのが実態です。本校では何度も実践しています

④「一斉授業」では、先生の説明が長く、生徒の活動が少ないのが特徴です。そのため、荒れた学級やルールの定着が低い学級、ルールは定着しているが活動意欲の低い学級等でも指導が可能です。そのため、多くの学校や教職員が「一斉授業」を展開しています。

4 ベテランほど新しい学習指導に抵抗感が高いため、人材育成も難しい

①学校教育は次から次へと変化を求められました。**学級経営**だけでなく、**学習評価**でも、1)目標標準評価、2)観点別評価、3)総括的評価、4)個人内評価の4点を活用します。さらに、**学習方法**も一斉学習から、**複線型の「個別最適な学習」と「協働的な学習」で学習目標を実現**することが求められています。

②**ベテランの先生も実践したことがないために抵抗感が高く、人材育成も難しい**のが現実です。本校では**日常活動から生徒も教職員も主体的・協働的な活動・学びを重視**しています。